



訪問ガイド 2026

ウフィツィ美術館

フィレンツェ・から 25€

<https://uffizi.visit-tickets.com/ja/>・優先入場チケット & 料金



歴史 & エクスperiences

起源 & 歴史

メディチ家の遺産と生誕

GOOGLE **4.7** ★★★★★ 93 252 レビュー

TIQETS **4.3** ★★★★★☆ 10 264 レビュー

フィレンツェの中心部、アルノ川沿いにそびえるウフィツィ美術館は、単なる博物館ではありません。それはメディチ家の権力と芸術への情熱が結集した象徴です。1560年、コジモ1世デ・メディチはジョルジョ・ヴァザーリに命じ、行政庁舎としての建物の建設を開始しました。当初、このU形をした壮大な建物は州の役所（uffizi）として設計され、芸術展示用ではなかったのです。しかし、その廊下にはすでに古代の彫像や絵画が飾られ、大公国の日常運営と文化の守護が密接に結びついていたことを示していました。

建物は1580年頃に完成しましたが、真の転換点は1737年に訪れました。メディチ家の最後の当主であるアンヌ＝マリー・ルイーゼが亡くなり、トスカーナ大公国はハプスブルク家のローレン家が継承することになりました。オーストリア帝国へコレクションが分散される危機的状況の中で、**1743年**の遺言が決定的な役割を果たしました。彼女は「私の所有する芸術作品は、すべて常にフィレンツェ市内に保存されなければならない」と決めました。この決断により、世界で最も貴重な美術品の一つであるコレクションがウィーンへ流出することを防ぎ、フィレンツェの文化的遺産として永久に残ることとなりました。

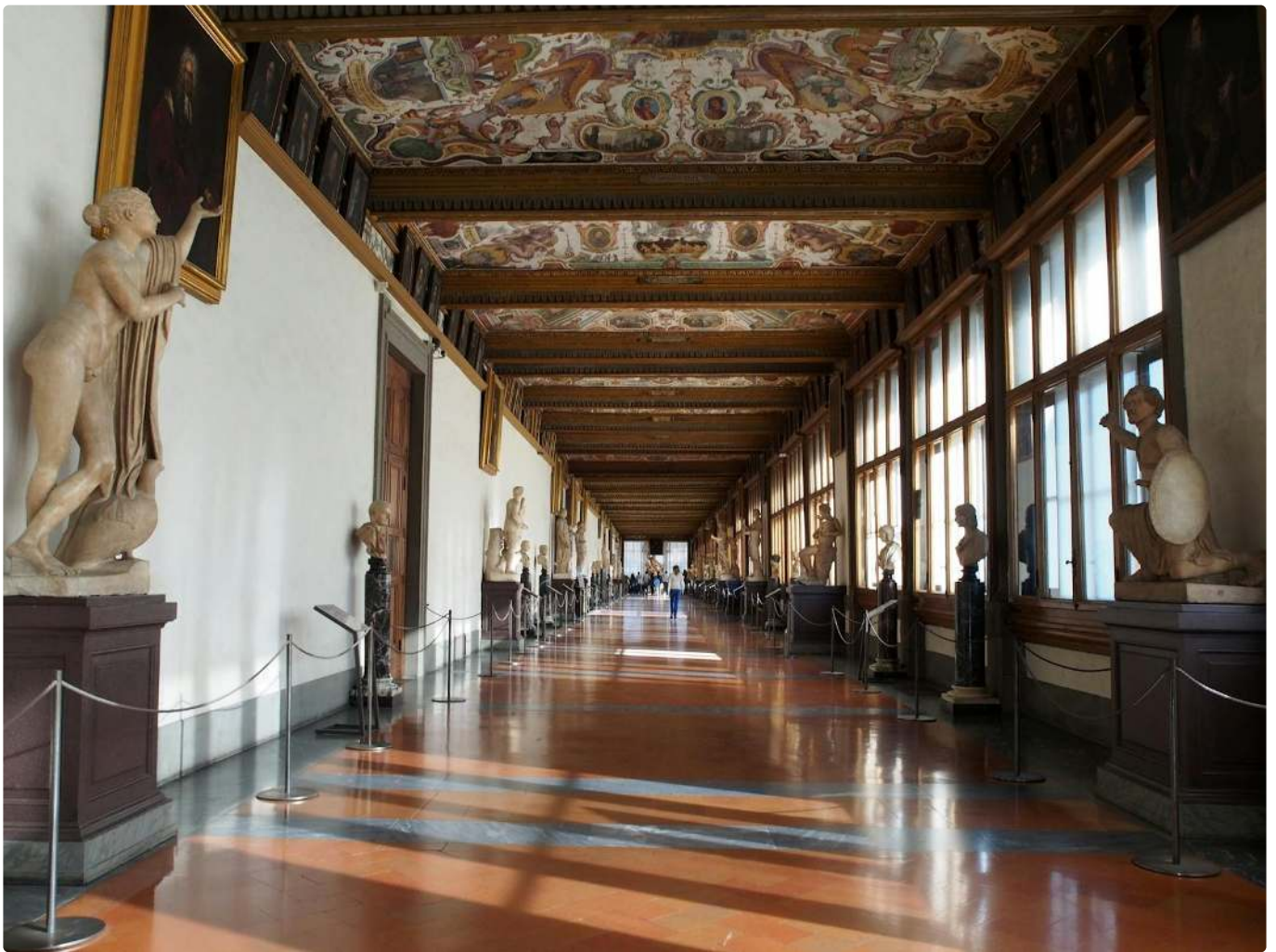
1765年、ウフィツィは初めて一般公開されました。当時、ここにはすでに1,100点以上の絵画と90体の古代彫像が収蔵されていました。これは近代初期からのメディチ家の買収の規模を示しており、ルネサンスの核心を形成する作品群が一堂に会していたのです。バロック様式の宝石とも呼ばれるトリブーナ室は、公共博物館が開館する以前から、メディチ家にとって最も貴重な宝物を展示するための八角形の部屋として機能していました。絶対的な芸術的権力と独占性の象徴であったこの空間は、今日でも訪れる者の心を震撼させます。

20世紀に入ると、ウフィツィはさらにその重要性を増していきました。1993年にはマフィアによるテロ攻撃を受けましたが、その復旧過程を通じて博物館のレジリエンスと社会的意義が再確認されました。現在、ウフィツィは年間400万人以上もの訪問者を迎え入れ、バチカン以外でイタリアで最も訪問者の多い博物館となっています。**12,000 m2**の敷地内では、1平方メートルごとに主要なヨーロッパの作品が密集しており、12世紀から18世紀までの美術史への完全な没入体験を提供しています。これは単なる鑑賞ではなく、西洋美術の源流に触れる旅なのです。

体験

入口ホールを抜け、広々とした中庭を見下ろすバルコニーに立つと、まず迎えてくれるのは圧倒的な光と空間です。アーチが連なる廊下からは、ポンテ・ヴェッキオとアルノ川の美しい眺望が広がっています。この視点は、博物館をフィレンツェの都市歴史と結びつけ、ヴァザーリ回廊から記念すべき写真休憩に最適なものです。自然光が差し込むギャラリーでは、壁画や油彩の色彩が生き生きと輝き、まるで画家が生きていた時代の空気を吸い込むような感覚を覚えます。

廊下を歩くと、足元には大理石の床が響き、頭上には天井装飾が広がります。エレベーターを利用しても、複数の階を移動しながら様々なテーマ別ギャラリー間を歩くため、身体的な負担も感じられます。しかし、その疲れは、ボッティチェリの『ヴィーナスの誕生』の前で息を呑む瞬間によって見事に報われます。混雑が少ない朝の時間帯であれば、静寂の中で作品との対話を楽しむことができ、ルネサンスの世界に完全に浸ることができます。オーディオガイドを耳に当てれば、専門的な解説が流れ、絵画の背景にある政治的・宗教的な文脈を理解しやすくなります。



訪問の準備

実用的な情報

住所 歴史地区中心部・地下鉄: サン・マルコ駅 (L1線、徒歩10分) またはシニョーリア広場近くのG1/G2系統バス停。	営業時間 季節や学校休暇により変動します。訪問前に公式サイトでご確認ください。
料金 年齢に応じて子供無料 (バリエーションをご確認ください)。 {promo}。	所要時間 完全な見学には最低2時間30分から3時間を計画してください。 ポッティチェリ室のみを見る場合は、急いでいる場合でも約1時間30分かかります。 オーディオガイドも利用可能で、体験をより豊かにします。
写真撮影 フラッシュなしの写真撮影は一般的に個人使用であれば許可されていますが、特定の臨時展示では禁止されています。 入口の看板をご確認ください。	対象客層 アート愛好家や学生に最適です。 8歳以上の子供連れ家族にも、専用で遊び心のあるコースのおかげでアクセスしやすいです。

アクセス方法

アクセス & 交通手段

 地下鉄 : サンタ・マリア・マッジョーレ教会 – 8 min à pied フィレンツェ中央駅 (9 min)・フィレンツェ・ペレトーラ空港 (21 min)
 バス : ベッキエッティ – 7 min à pied フィレンツェ中央駅 (12 min)・フィレンツェ・ペレトーラ空港 (33 min)
 車 フィレンツェ中央駅 (7 min)・フィレンツェ・ペレトーラ空港 (24 min)
 自転車 フィレンツェ中央駅 (7 min)・フィレンツェ・ペレトーラ空港 (31 min)

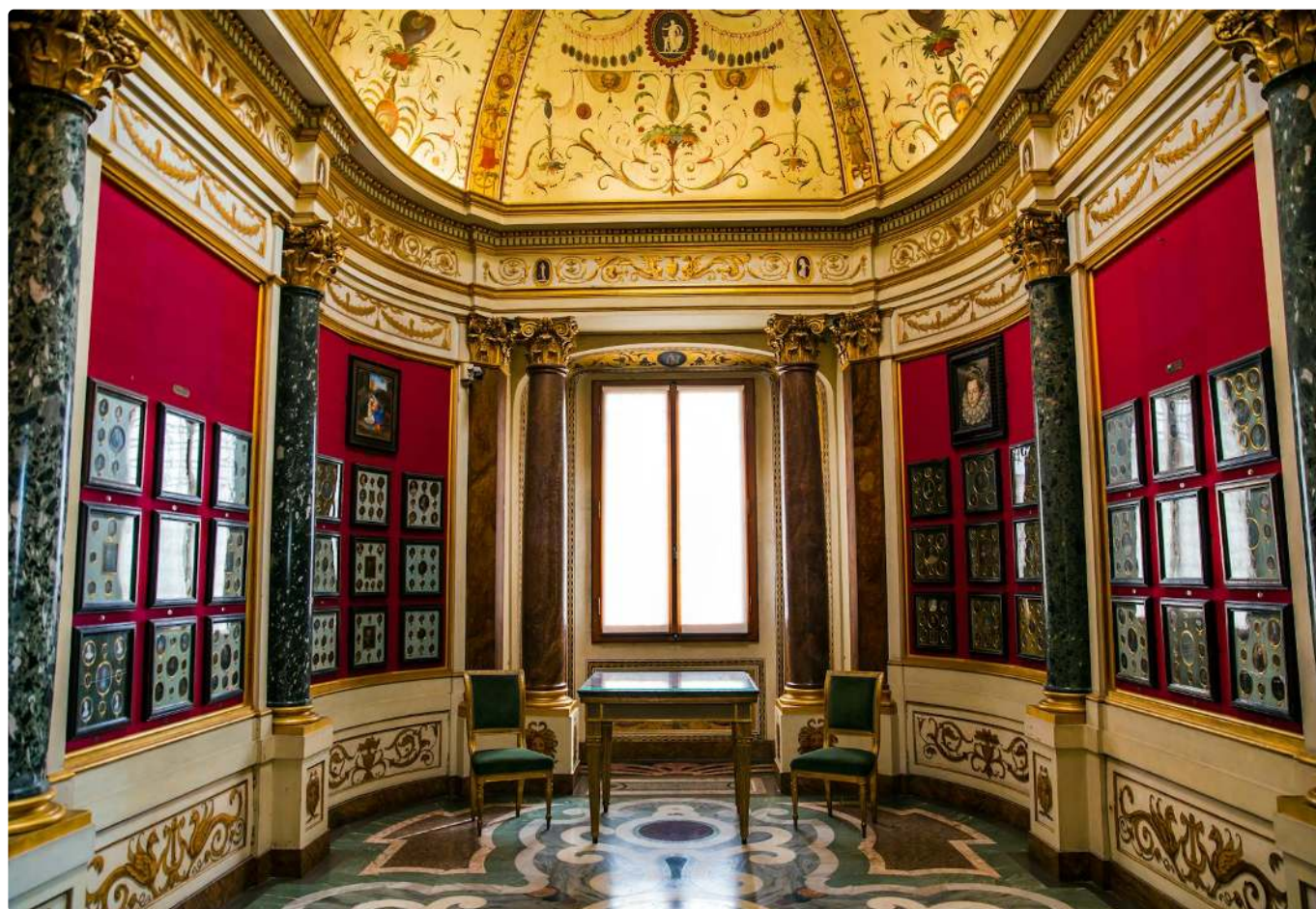
LOCALISATION

Où se trouve ウフィツィ美術館？



📍 Piazzale degli Uffizi 6 – 50122 フィレンツェ

🌐 43°46.095' N, 11°15.328' E



組織

階層別に見る展示構成

Niveau 0 (Rez-de-chaussée)

地下レベルおよび1階の一部には、古代彫刻コレクションや初期のフレスコ画が見られます。特に注目すべきは、古代ローマのコピーであるギリシャ彫像の数々です。これらはメディチ家のコレクションの基盤を形成しており、廊下の柱間に配置されています。また、入口付近には無料ロッカーがあり、大きなバッグを預けることができます。

Niveau 2

2階はウフィツィの核心部分であり、主に14～16世紀のイタリア・ルネサンス絵画が展示されています。西側翼にはジョットやドンATELLOなどの初期ルネサンス作家の作品が、東側翼にはボッティチェリやラファエロなどの成熟期ルネサンスの傑作が集められています。トリブーナ室もこの階に位置し、八角形の空間で圧巻の展示を展開しています。

Niveau 5 (Terrasse)

最上階または屋上テラスからは、フィレンツェの全景を望むことができます。特に夕暮れ時、アルノ川沿いの景観が黄金色に染まる様子は感動的です。カフェテリアもこの階にあり、パノラマビューを楽しみながら軽食を取ることができます。ただし、アクセスはエレベーターまたは階段経由のみで、事前の確認が必要です。

アクセシビリティ

車椅子アクセス

エレベーターによる車椅子対応アクセスは保証されていますが、入口での具体的な経路を確認してください。

ファミリー向け

子供向けの教育プログラムあり；ベビーカー用のロッカーの利用をお勧めします。

オーディオガイド

フランス語, 英語, スペイン語

必見スポット



選択

必見の傑作と名場面

01

サンドロ・ボッティチェリ ギャラリー 10-14

ヴィーナスの誕生

フィレンツェ・ルネサンスのアイコンであるこの作品は、**1765年**からここに保管されています。波に乗って岸辺に現れる愛の女神ヴィーナスの姿は、新プラトン主義の思想を視覚化したものと解釈されます。細かな筆致と優雅な線描は、ボッティチェリ独特のスタイルを示しており、見る者を魅了します。

💡 この絵はもともとメダイコ・ディ・カステッロの別荘のために制作されたと言われています。しかし、その美しさゆえにすぐにメディチ家のコレクションに加わりました。フラックスなしの写真撮影は許可されていますが、混雑時には前列まで近づくのが難しいこともあります。

02

サンドロ・ボッティチェリ ギャラリー 10-14

プリマヴェーラ

『ヴィーナスの誕生』と並んで展示されているもう一つの傑作です。春の到来を祝う allegory（寓意画）として解釈され、神話上の人物たちが森の中で踊っている様子が描かれています。ボッティチェリの緻密な植物描写と色彩感覚が際立っており、自然と神話の融合を感じさせます。

💡 この作品は長年、損傷の恐れがあるため修復作業が行われてきました。最近の研究では、元の色彩よりも暗く見える理由が判明し、より鮮やかな状態での鑑賞が可能になっています。

03

ティツィアーノ・ヴェチェッリオ トリブーナ室

ウルビノのヴィーナス

ルネサンス期の裸婦画の代表作の一つです。横たわるヴィーナスの姿は、理想化された美と現実的な肉体表現のバランスが取れており、後の西洋美術に大きな影響を与えました。ティツィアーノの柔らかなタッチと背景の風景描写が調和し、静謐な雰囲気を醸し出しています。

💡 この絵はナポレオン戦争中にフランスへ持ち去られそうになりましたが、奇跡的にフィレンツェに残ることができました。その経緯は、当時の外交交渉の複雑さを物語っています。

04 ラファエロ・サンツィオ ギャラリー 10-14

天使たちのコンCERTO

ラファエロの若年期の作品であり、音楽を奏でる天使たちが描かれています。彼らの表情やポーズからは、純粋な喜びと調和が感じられます。ラファエロの優れた構図能力と色彩感覚が早期から発揮されており、彼の天才性を示す重要な作品です。

💡 この絵はもともと祭壇画の一部だったと考えられていますが、独立した作品として高く評価されています。天使たちの衣装の詳細な描写も見所の一つです。

05 ジョット・ディ・ボンドーネ ギャラリー 2

マエストà（聖母子像）

フル・ルネサンス以前のフィレンツェ絵画の根源を理解するために不可欠な作品です。ジョットの革新的な立体感と感情表現が、中世の平坦な画法から脱却したことを示しています。ジョットのこの作品は、後の画家たちに多大な影響を与え、西洋絵画の父と呼ばれる所以となっています。

💡 このマエストàは、ペルージャのサンタ・マリア・デル・カッポ教会のために制作されました。その後、メディチ家によって買い上げられ、ウフィツィに収蔵されました。

06 カラヴァッジョ ギャラリー 10-14

メデューサ

恐怖と驚愕の瞬間を捉えたこの作品は、カラヴァッジョの劇的な照明法（キアロスクーロ）の典型例です。メデューサの顔が盾に映り込んでいる様子は、視覚的なインパクトが強いです。カラヴァッジョのリアルな描写と心理的な深さが、観客を引き込みます。

💡 この絵は元々円形の盾に描かれていましたが、後に四角いキャンバスに移されました。その際に一部が切り取られた可能性があります。

07 トリブーナ室

トリブーナ室

八角形の部屋である有名なトリブーナは、公共博物館が開館する以前、メディチ家の最も貴重な宝物を展示するために使用されていました。今日でも、絶対的な芸術的権力と独占性の象徴となっています。トリブーナ内の展示は定期的に回転しますが、常に最高峰の作品が揃っています。

💡 この部屋はもともと天文観測所としても機能していました。天井の装飾には星図が描かれており、科学と芸術の融合を示しています。

08 廊下

ポンテ・ヴェッキオ展望

博物館内からアルノ川とポンテ・ヴェッキオを望むことができる窓を見逃さないでください。このユニークな視点は何度も忘れられがちですが、博物館をフィレンツェの都市歴史と結びつけます。ポンテ・ヴェッキオの宝石店の屋根瓦と川の流れは、絵画的な情景を提供します。

💡 ミケランジェロはこの橋を破壊しようとしたと言われますが、その美しさゆえに保留されました。実際、第二次世界大戦中にドイツ軍が他の橋を爆破した際にも、この橋だけは残されました。

アドバイス

完璧な訪問のための戦略

TIMING

開館時間厳守で到着: 8時15分 または 9時00分 にぴったり到着することで、10時以降に到着する大規模な観光バスよりも早く入場できます。これにより、自然光が理想的で、主要なギャラリーでのストレスや過度な待ち時間なしに傑作を鑑賞できる混雑が少ない環境を楽しむことができます。

PARCOURS

直接10〜14号室を目指す: ボッティチェリのファンであれば、1階の10〜14号ギャラリーに直行することで、訪問者が少ない部屋で時間を無駄にするのを避けることができます。この戦略により、非常に人気があり、しばしば混雑するこの象徴的な作品の周りに行列ができる前に、『ヴィーナスの誕生』を観覧することが保証されます。

PAUSE

2号室（ジョット）をスキップしない: 3つの『マエストロ』があるこの部屋は、フル・ルネサンス以前のフィレンツェ絵画の根源を理解するために不可欠です。ジョットからボッティチェリまでの様式の進化を見ることは、ギャラリー内の展示全体の理解を大幅に豊かにします。

AUDIOGUIDE

オーディオガイドも利用可能で、体験をより豊かにします。自力での見学も可能ですが、ガイド同行は見学を大幅に豊かにします。ガイドはメディチ家と芸術家の間の関係を理解するための重要な政治的・芸術的文脈を提供します。

BILLET

オンラインで優先入場チケットを予約しておいて正解でした。行列なしで直接入れるのは救世主のような存在でした。希望する時間帯を確保するには、数週間前に予約することをお勧めします。窓口での在庫切れは頻繁に発生します。

PHOTO

ポンテ・ヴェッキオの眺望を楽しむ: ポンテ・ヴェッキオとアルノ川を望むことができる廊下の窓を見逃さないでください。このユニークな視点は何度も忘れられがちですが、博物館をフィレンツェの都市歴史と結びつけ、ヴァザーリ回廊から記念すべき写真休憩に最適なものです。

ENFANTS

対象客層: アート愛好家や学生に最適です。8歳以上の子供連れ家族にも、専用で遊び心のあるコースのおかげでアクセスしやすいです。子供向けの教育プログラムあり；ベビーカー用のロッカーの利用をお勧めします。

CONFORT

快適な靴は必須: 12,000 m² を歩き回り、複数の階があるため、エレベーターがあっても見学は身体的に負担がかかります。メディチ家の歴史的建造物内に点在する様々なテーマ別ギャラリー間を多く歩くことになるので、適切な服装を用意してください。



よくある質問

よくある質問

ウフィツィ美術館の入場チケットは予約必須ですか？

はい、オンラインでの予約は強く推奨され、繁忙期には不可欠です。年間400万人の訪問者に対応するため、窓口での在庫切れは頻繁に発生します。希望する時間帯を確保するには、数週間前に予約することをお勧めします。

チケットは返金または変更可能ですか？

選択した第三者販売者の条件によります。購入前にキャンセルポリシーを必ず確認してください。一部のチケットでは訪問24時間前までの無料キャンセルが可能ですが、現在のパートナー提供のプロモーションオファーによっては、厳格に返金不可となるものもあります。

現在プロモーションキャンペーンはありますか？

ヨーロッパ人若者（18～25歳）やイタリア在住者には割引料金が適用される場合があります。公式サイトで特別オファーをご確認ください。その他の層については標準価格が適用されますが、事前予約により追加料金や観光ピーク時の長時間の待ち時間を回避できます。

身分証明書の提示は必要ですか？

はい、予約時に使用した身分証明書を持参することを強くお勧めします。入場時、特に年齢や国籍に基づく優待料金の場合、現地の当局が要求する条件を満たしていることを確認するために、チケット保持者の身元確認が行われることがあります。

ウフィツィ美術館の人混みを避けるためのベストな訪問時期は何ですか？

この代表的な博物館を落ち着いて完全に巡るには、最低でも2時間30分～3時間を見込んでください。ポッティチェリなどの必見スポットのみを対象とする場合、1時間30分で十分です。12,000平方メートルの展示空間にある主要作品の詳細な技術的・象徴的な要素を十分に楽しむため、表面的に見るのを避けましょう。

ご存知ですか？

エピソード & トリビア

メディチ家の譲り得ない遺産

1743年の遺言によって、アンヌ＝マリー・ルイズがコレクションがウィーンへ分散するのをどのように防いだか。この決定的な行動は、フィレンツェの文化財がオーストリア帝国のコレクションに吸収されることを防ぎました。**1743年**の条約は、現代のウフィツィが存在するための法的根拠となっています。

行政庁舎から博物館へ

建物は当初、ヴァザーリによって州の役所として設計され、芸術展示用ではありませんでした。1560年から建設が始まり、主にトスカーナ大公国の日常運営に使用されていました。ヴァザーリの設計意図は、効率性と威厳の両立でしたが、結果として芸術のための完璧な空間となりました。

イタリア最多の入場者数記録

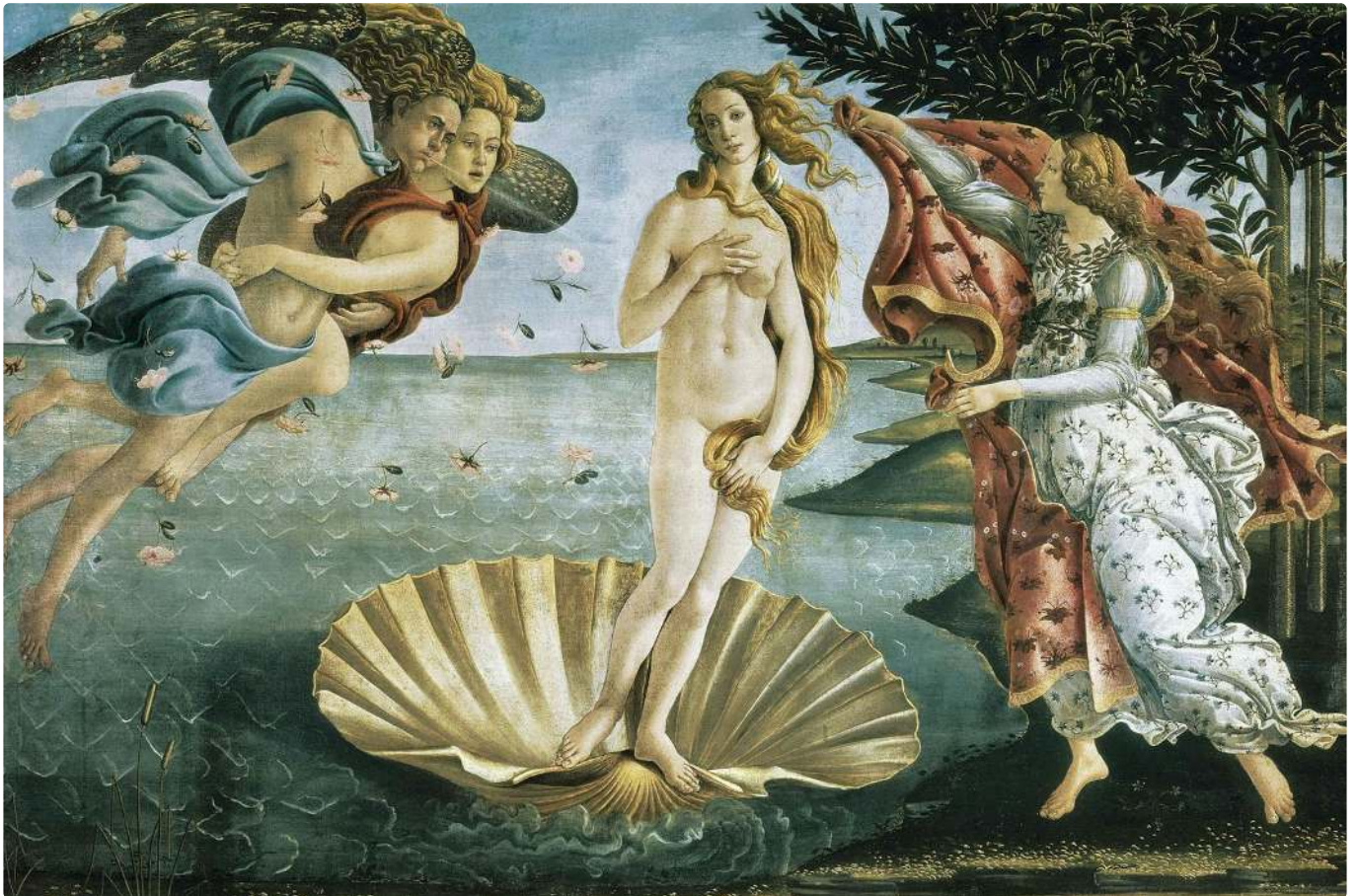
2019年には400万人を超える入場者数を記録し、バチカン以外でイタリアで最も訪問者の多い博物館です。パンデミック前のこの記録的な年には、正確に4,391,861人が門を通過し、世界的なアート愛好家にとって不可欠な文化的目的地としての地位を確固たるものしました。**400万人**という数字は、その人気を示す指標です。

世界唯一のコレクション

イタリア・ルネサンスを超えて、この博物館にはラファエロとポッティチェリの現存する最高のコレクションがあります。12,000 m²の敷地内では、1平方メートルごとに主要なヨーロッパの作品が密集しており、12世紀から18世紀までの美術史への完全な没入体験を提供しています。**1平方メートルあたりの密度は、他を寄せ付けない富です。**

博物館 周辺

ウフィツィ美術館周辺は、フィレンツェの歴史的な中心部の核を成しています。すぐ隣にはシニョーリア広場があり、ヴェッキオ宮殿の重厚な建築が支配的に立ち並んでいます。この広場は、メディチ家の政治的陰謀の直接的な証人であり、ウフィツィのコレクションを形作った背景を知る上で不可欠な場所です。また、アルノ川にかかるポンテ・ヴェッキオは、宝石店が並ぶ有名な中世の橋で、博物館の窓からも象徴的な眺めを提供します。写真撮影には欠かせない魅力的なスポットです。食事については、中央市場近くのトラットリア・ソスタンツァがおすすめです。伝統的なフィレンツェ風肉団子で評判のこのレストランは、見学後の疲労回復に最適です。さらに、ピッティ宮殿に隣接するボボリ庭園では、日陰での休憩を楽しみながら、歴史的な庭園散策を行うことができます。



ウフィツィ美術館を訪れることは、単なる観光ではありません。それは時間を超えた対話であり、人類の創造力の頂点に触れる経験です。フィレンツェという街自体が一つの巨大な博物館であるならば、ウフィツィはその心臓部と言えるでしょう。あなたの前に広がる絵画たちは、何百年もの歳月を経て今もなお語りかけてきます。ぜひ、この特別な瞬間を心に刻んでください。